

追加

p.56 架空のキャラクター：

背景：哲学では、心を説明するのに別の心（というより目）を使ったかのような説明は、心の中に別の小人が存在することとして問題となる。心の小人：ホムンクルス **Homunculus**。哲学のほか、心理学、人工知能、最近では脳科学における議論。特に、「自分」（自我、**Self**）。たとえば、自分が痛いと感じるのは、自分の中にある「自分」が痛いと感じるからだ、とすると、その自分はどこにある、と無限後退する。

p.62 「この観察は、知的努力に対する身体的反応が、感情的覚醒とは異なることを示唆していた」

His observation indicated that the response to mental effort is distinct from emotional arousal

彼の観察結果は、メンタルエフォートに対する反応は、情動的（身体表出をとまなう）覚醒とは明確に区別できることを示している。（emotional arousal は、ここでは、快不快に対する身体的反応のこと）

p.74 3章 **The lazy controller**（原文にサブタイトルはなし。意識になっています）

p.75 思考能力 ⇒ **in my ability to think coherently** 首尾一貫して思考する能力 **coherent** は論理の一貫性
たまさかの ⇒ **occasional** ここでは、コントロールのないこと。偶発的。

p.76 最適経験 ⇒ **optimal experience** 難しすぎず簡単すぎず、適当な（内的）楽しさのある経験

p.78 だからこそ ⇒ **Another way of saying this** いいかえると

バウマイスターの実験：**willpower** という言葉を使用。クッキーを我慢したあとに、解けないパズル

p.79 **ego depletion** 自我消耗、自我枯渇

p.80 お粗末な判断を下す ⇒ **performing poorly**

実験結果は雄弁である ⇒ **The evidence is persuasive.** 説得的

モチベーション ⇒ **motivation** 動機（づけ）

インセンティブ ⇒ **incentive** 誘因

これに対して、タスクをこなしながら... ⇒ **In contrast, increasing effort is not an option..**

（大まかには、インセンティブ（外的な動機づけ）により面倒な作業をさせることはできるが、**System2** が自分で努力を高めることによって作業をすることはない）

p.81 **Volunteers** 実験協力者

もしこれに気をとられたら ⇒ **if they found their attention draw away they had to refocus ..**

実験協力者の視線が観察されている状況と考えられる（この実験は、現在まで議論中）

p.86 この問題の罨は.. という点である ⇒ 応答する人が思っているかどうか(思い出せるかどうか)である。

p.88 よりまじめ ⇒ **engaged** 自分から行動に関わって没頭している様子

p.90 認知的思考力テスト ⇒ **cognitive reflection test**

p.92 **system2** には、知的能力 (**intelligence**) と合理性 (**rationality**) (**reflective mind**)

関連図書

・ **Willpower** 意志力の科学 ロイ・バウマイスター, ジョン・ティアニー著

渡会圭子訳 2013.5 名古屋 2F 開架 141.8 B 28

・ 心は遺伝子の論理で決まるのか：二重過程モデルでみるヒトの合理性 キース・E・スタノヴィッチ [著]

椋田直子訳；鈴木宏昭解説 2008.12 豊田 3F 開架 140 St 2